

令和2年度 第2回京都市国際化推進プラン点検委員会 摘録

日時：2021（令和3年）2月8日（月）午後3時00分～午後5時00分
場所：京都市役所 分庁舎 第8会議室
議題：（1）京都市国際化推進プランの総括
（2）京都市国際戦略ビジョン（案）について
（3）意見交換
出席者：京都市国際化推進プラン点検委員会委員
横山俊夫委員（座長）、笠間絹子委員、佐野真由子委員（オンライン参加）、
チースレロヴァー・クリスティーナ委員
京都市
山本 政策推進担当局長、山口 国際化推進室長、小田 国際化推進室副室長、
森本 交流推進担当課長、西村 担当係長、竹原
次第：1 開会
2 議題
3 京都市挨拶
4 閉会

議題（1）京都市国際化推進プランの総括

<横山座長>

まずは、京都市国際化推進プランの総括について、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

（資料1に基づき説明）

<横山座長>

京都市国際化推進プランの策定後、12年間の大きな変化として、庁内における国際化推進室のプレゼンスが上がり、国際化を全庁で進める潮流ができたと思う。これは大きなステップアップである。

<笠間委員>

プランの総括について、とてもわかりやすくまとめられており、課題を解決しながら着実に国際化を進められてきたことがわかった。

<チースレロヴァー委員>

国際会議が増えてきたことはとても良いことだと思う。国際会議の開催を通じて、海外も含め、様々な方が京都に来られることは素晴らしい。

<横山座長>

「国際的な事業を展開するうえで考慮すべき、本市をとりまく情勢の変化」のところで、「国際交流団体における若い世代の担い手不足」という記載があったが、この点について市としてはどう考えているか。

じむきょく
＜事務局＞

しまい と しこうりゅう さまざま だんたい こうりゅう つづ せつりつ なが ねんげつ た
姉妹都市交 流において、様々な団体が交 流を続けてくださっているが、設 立から長い年月が経ち、
だんたい こうれいか すす かがい こえ こんご わか せだい さんか
団体メンバーの高齢化が進んでいることが、課題となっているという声をきく。今後は、若い世代の参加
そくしん あら ぶんや こうりゅう はば ひろ おお かたがた しまい と しこうりゅう たずさ
を促進し、新たな分野へ交 流の幅を広げ、より多くの方々に、姉妹都市交 流に携 わっていただける
よかにしたいと かんが 考 えている。

よこやまざちょう
＜横山座長＞

そうかつ いいん いけん し さくせい とう たげんごたいおう せんもん
総括の中で、委員からの意見として、「市で作成するパンフレット等の多言語対応については、専門
こうほう つく はなし せんもん こうほう つく かくしよぞく
の広報チームを作ってはどうか」という 話 があったが、専門の広報チームを作らずとも、各所属で
たげんごたいおう のうりよく こうじよう きょうちよう よ おも
多言語対応の能力が向 上していることは、もっと強 調しても良いと思う。

いっぼう しみん してん た ぎょうせいようご ひじよう むずか つた きょうとしこくさいせんりやく
一方で、市民の視点に立つと、行 政用語は非常に 難 しく、伝わりにくい。京都市国際戦 略 ビジ
あん かか しみんいけん なか げんごめん かだい ひじよう じゅうよう
ョン（案）に係る市民意見の中でもあったが、「言語面での課題」は非常に 重 要である。

しりょう なか かつよう すうじ しめ ないよう すうじ あらわ
資料 1 の中で、グラフなどを活用され、数字で示されている内容はわかりやすかったが、数字で 表
とくちよう なに
せない特 徴は何かあるか。

さ の いいん
＜佐野委員＞

こくさいかいぎ なんけん ふ きさい こくさいかいぎ かいさい あ
国際会議について、「何件増えたか」ということのみが記載されているが、 国際会議の開催に当たり、
しみん こうほう じっさい かいさい なに つた かんが ひつよう
市民にどう広報したのか、実際に開催して何が伝わったのか、ということについても考える必要がある。

よこやまざちょう
＜横山座長＞

こくさいかいぎ かいさいけんすう くわ こくさいかいぎ せい か こうか
国際会議の開催件数に加え、「国際会議の成果として、どのような効果があったのか」ということに
きさい よ おも
ついても、記載があれば良いと思う。

さ の いいん
＜佐野委員＞

しりょう こんご かだい てん あ ひじよう きょうとし
資料 1 の P 2 0 において、「今後の課題」が 3 点挙げられていたが、非 常にわかりやすかった。京都市
こくさいせんりやく あん ひょうげん よ おも
国際戦 略 ビジョン（案）においても、このようにわかりやすい表 現があれば良いと思う。

いいん
＜チースレロヴァー委員＞

かんきょうもんだい とりくみ おも
プランの 1 つのポイントとして、「環 境問題への取組」があるかと思うが、そのことについて、より
ぐたいき きさい かん
具体的な記載があってもいいと感じた。

よこやまざちょう
＜横山座長＞

こんご かんが たん べんり けいざいかつどう もと みちか もんだい
今後のことを 考 えると、単に便利で経済活動をしやすいまちを求めるだけではなく、身近な問題と
かんきょうもんだい がいこくせきしみん ふく ぜんいん と く もと
して、環 境問題に外国籍市民も含め、全員で取り組むまちにしていけることが求められる。

かさまいいん
＜笠間委員＞

きょうとしこくさいせんりやく あん かん しみんいけん なか たぶんかきょうせい かんてん み
京都市国際戦 略 ビジョン（案）に関する市民意見の中に、「多文化共 生の観点から見ると、これま
くら こうたい み ごいけん
でのプランと比べ、ビジョンは後退しているように見える」という御意見がいくつかあった。プランの
そうかつ がいこくせきしみん なんにん ふ しみん かた く かいぜん
総括では、「外国籍市民が何人増えたか」だけではなく、「市民の方の暮らしがどのように改 善されたか」
しめ よ おも
を示すことができれば良いと思う。

よこやまざちょう
＜横山座長＞

きょうとふ れんけい と く そうかつ ふく
もし、これまでに京都府と連携して取り組んできたことがあれば、「総括」に含めていただけるとあり
がたい。

議題（2）京都市国際戦略ビジョン（案）について

＜横山座長＞

続いて、京都市国際戦略ビジョン（案）について、事務局から説明をお願いします。

＜事務局＞

（資料2、資料3-1、資料3-2に基づき説明）

＜チースレロヴァー委員＞

今回の市民意見を受けた修正は、主に表現の修正になっていると感じるので、もう少し具体的に市民意見を活かした方がいいのではないかと感じた。例えば、学校教育において、国際感覚を育てるといった点について、もう少し方向性を具体的に記述した方がいいと思う。

＜横山座長＞

「戦略」や「競争」という言葉に抵抗感がある意見が見られたが、京都らしいと感じた。市役所としての文言の趣旨を明確にした方がいい場合もあると思う。

＜佐野委員＞

「国際的な人々」の項では、もう少し対象をはっきり述べてもいいと思う。国際都市像は、1から4まで項目を分けた構成になっているが、一つ一つに気を遣いすぎて、結局それぞれが何を念頭に置いているのかわからなくなり、同じようなことを言っているように感じる。国際都市像1で対象にしているのは、その本文からも高度人材であることは明らかなので、「高度な能力を持つ人材」など、はっきりと表現した方がわかりやすくてよいと思う。

また、京都市における高度人材の割合が他の大都市と比べて、意外に低いことに驚いた。これから「高度人材を何人増加させる」という目標ではなく、「高度人材に選ばれるような環境の整備」を目指すべきだと思う。

＜チースレロヴァー委員＞

「人材」という表現は企業のような印象を受けるので個人的にはあまり好まない。それよりは「多種多様」の方がよいと思う。「高度人材」といったように、エリートだけを対象にするような表現はきつい印象を受ける。それ以外の人たちは貴重ではないのかといった誤解を与えるような表現だと感じる。

＜佐野委員＞

「高度な人材だけを集めるわけではない」という点については、そのとおりだと思うが、国際都市像を4つに分けて記載しており、さまざまな人を想定していることは他のカテゴリーからわかるので、国際都市像1においては、そのままの表現を残し、むしろ明確化するほうが良いと思う。

＜横山座長＞

「高度人材」には、その家族がいることを忘れてはいけない。その家族が一緒に来て京都で暮らすことも受入れ体制を整備するうえで念頭に入れる必要がある。

＜横山座長＞

P10のレジリエント・シティーズ・ネットワークについては、単にレジリエント・シティに選ばれたということだけを記載するのではなく、何をもって評価され、京都市としてどのような取組を行っているのかといった点を記載すべきだと思う。個人的には、京都市はレジリエンスに係る様々な課題を抱えていると感じる。

「外国人が取り残されないように」という視点が重要だが、日常の活動を組み立てていく段階で外国人と協力して議論するということが書かれていないように思う。例えば、防災の仕組みづくりを行うところから一緒にやって協力していくということをもう一歩踏み込んで記載してもいいのではないか。

また、コロナ禍の状況がビジョンに反映されていないという意見も見られるが、レジリエンスに関する記述がある箇所に、自然災害だけでなく、疫病についても触れるなど、書きぶりに工夫の余地があると思う。

<笠間委員>

推進体制について、数値目標は作らないのかといった意見が見られたが、モニタリング指標としての意図などが十分伝わっていないような気がしてもったいないと感じた。今回のコロナ禍のような事態になったとしても、柔軟に見直すことができる内容であるとか、数値が伸びたからいいのではなく、伸びていないものの背景にはこういった理由があるといった分析を行うことができるのか、この推進体制を採った意図に関する記載があるとよいと思う。

<横山座長>

教育面での市の努力について、もう少し記載できることがあるのではないかと感じる。特に、小学校に入ってきた外国籍の子どもについては、学業についていけない事例をよく聞くので、その辺りに関する取組をもう少し力説してはどうか。安心して日本の学校に入れる体制があることが重要である。

<笠間委員>

私が大学で外国人研究者の家族を受入れを担当していて感じたことであるが、外国人の家族には、そもそも日本の学校に関する情報を十分に入手できていない状況もある。結局「インターナショナルスクール一択しかない」といった判断になってしまう場合もあり、その学費が高額であることが大きな負担となりかねないので、公立の学校へ入るハードルを下げることに力を入れてほしい。

<横山座長>

京都市の教育について、改善されている部分もある。一部の小学校では、若い先生を入れることにより、外国人生徒へのサポートが充実し、生徒が生き生きと過ごせている。

<チースレロヴァー委員>

日本人を対象にした国際交流プログラムについての記載がほしい。子どもたちの間で、留学や英語、国際交流への関心が薄くなっているといった話を聞く。若い、これからの時代を作る世代に国際交流に興味を持ってもらい、国際感覚を育てることが大切だと感じる。

<佐野委員>

推進体制について、他部局との連携をどのくらい本気でやっていくのかを示してほしい。行政以外の団体のことは、一方的に決められないのはわかるが、行政の中でどう責任を持って推進していくのかということについて、もっと踏み込んで書いてほしい。

また、推進体制のページに追加する予定の図もわかりにくく、各団体の協力を一方的に想定しているようにも見える。それよりは、京都市役所内で諸部署に横串を刺して進めていくことがわかるような図にしてはどうか。

じむきょく
<事務局>

市役所内での協力体制については、P 7 に図のとおり、本ビジョンが各部署の政策に横串を刺すものとなるように、庁内会議等を使って進めていきたいと考えている。詳しくは資料 4 で説明させていただきます。

よこやまざちょう
<横山座長>

1978 年に作られた「世界文化自由都市宣言」について、内容の見直しがされていないが、コロナ禍の影響などを踏まえ、文章を見直す必要があると考えている。

また、世界歴史都市連盟も大きな組織になっており、これからはあらゆる都市や団体等に協力を仰いでいくために、京都市国際戦略ビジョン内に世界歴史都市連盟の課題を少し書き加えてもいいと思う。

よこやまざちょう
<横山座長>

モニタリング指標に「コンベンション開催件数」や「コンベンション参加者数」とあるが、この「コンベンション」の範囲がわかりにくい。オンラインの写真展示などもコンベンションに入る可能性があるのではないかな。

いいん
<チースレロヴァー委員>

せっかく「ニュー・ブランシュ」などをはじめ、様々な行事を行っているので、「文化行事をこれだけやっています」といったことがわかる指標を入れてもいいのではないかなと思う。

よこやまざちょう
<横山座長>

モニタリング指標に「市民実感調査」の記載があるが、設問の内容が抽象的すぎるように感じる。

かさまいいん
<笠間委員>

京都市国際戦略ビジョンに出てくる数値の元データは、それぞれ市のホームページに説明があると思うので、そこへアクセスできるようなホームページ上の工夫があればよいと思う。

よこやまざちょう
<横山座長>

続いて、「京都市国際戦略ビジョン（案）に基づく国際交流・多文化共生事業の推進体制」について、事務局から説明をお願いします。

じむきょく
<事務局>

りょう
(資料 4 に基づき説明)

よこやまざちょう
<横山座長>

これまでの「国際化」という言い方から「国際戦略」に変わった意図について、伺いたい。

じむきょく
<事務局>

国内の大都市では、「国際化」はすでになされているという考えから、この表現を使っているところはほとんどなくなっている。本市でも同じ考えのものと、使わないこととした。一方で「国際戦略」という言葉は少し強い印象を与えるかもしれないが、様々な政策や施策に渡って、横串を刺していくというところで、前向きな表現として考えている。

いいん
<チースレロヴァー委員>

従来、「国際交流」と「多文化共生」の 2 つに分野で分けられていた審議会が 1 つに統一されることについては、賛成である。これまで、2 つの審議会での議論の内容が重複することもあったかなと思う。

議題（3）意見交換について

<佐野委員>

先ほど申し上げた内容と重なるが、市がどこまで力を入れて国際戦略ビジョンに基づいた取組を進めていかれるのか、またこのビジョンは市の中でどのような位置づけなのかという点について伺いたい。

<事務局>

京都市国際戦略ビジョン策定のプロセスの中では、いかにして「国際」という分野を全庁的に展開していくかを考え、他部署とも調整を重ねてきた。また、京都市基本計画に関して、明確に「国際戦略」という記載がなくとも、あらゆる分野で「国際」が関係しており、国際の視点なくして政策や施策は進められないと考えている。

また、多文化共生に関して申し上げると、改正出入国管理法の施行を受けて、平成31年に「多文化共生のまちづくり推進プロジェクトチーム」が本市で発足した。このプロジェクトチームにおいては、福祉や教育など、様々な分野にまたがる部署が集まり、多文化共生に係る課題の解決に向けて、議論を重ねてきた。このように、多文化共生の意識は、各部署に根付いてきていると考えている。

来年度以降、関連部署がさらに主体的に国際的な事業に取り組むように、庁内会議等を効果的に使いながら、しっかりと京都市国際戦略ビジョンが機能するよう進めていきたいと考えている。

<横山座長>

議論は尽きないが、時間が来てしまったため、令和2年度第2回の京都市国際化推進プラン点検委員会を終了させていただく。

(以上)